平成21年度 東愛宕小学校学校経営方針

校長 古家 義伸

人格の基礎を形成する小学校時代に、人から認められ、自分でできたという成功体験を積むことが、豊かな心を育み、人間が持っている「できるようになりたい」「もっとよくなる」という成長・向上への願いを育てていくことになると思う。このような向上心と意欲的に生きる姿勢を育てたいと考え、次の目標を定める。

〈平成21年度の教育目標〉

- 「かがやく子」
- ・よく考える子
 - ・自分も友だちも大事にする子
 - ・あきらめないでがんばる子（本年度の重点目標）

1. 今年度の学校の重点的な取り組み

(1) 学習指導（基礎・基本の定着と学力の向上）

①基礎・基本の学力の定着を図るための授業の工夫・改善

○配慮を要する児童にも分かりやすい授業の進め方を工夫する。

- ・教室の前面を、可能な限りシンプルにする。
- ・発問、指示は、短く明確に。（1回に一つの指示が望ましい）
- ・指導の途中で、一人一人の学習の状況を確認しながら進める。
- ・たとえ一人の児童でも、空白の時間（やることが不明）を作らない。
- ・音読、朗読、書く活動、計算等、基本的な内容の学習を継続して行い、基礎・基本の定着を図る。
- ・フラッシュカードを使用する等、授業の導入に工夫をし、集中させる。
- ・学年でできるだけ同じ形式のノートを使用し、ノートの取り方をきめ細かく指導し、定着させる。
- ・単元全体を見通した教材研究を行った上で、各時間の授業の展開を工夫する。
- ・児童の実態を考慮し、スモールステップの授業を行う。

○児童の努力（当たり前に見えることも含めて）に対してほめる。

- ・児童の日々の様子について、可能な限り具体的に把握し、個別に具体的に認めほめる機会を多くする。
- ・配慮を要する児童についても、意図的・計画的にほめる機会を増やす。
- ・そのために、事前の具体的な個別の配慮・指導にも力を入れる。

②校内研究・自主研修をとおして、教師自身の授業力を高める。

○校内研究……算数科授業の研究

- ・研究主題「意欲的に学習に向かう子の育成」
- ・学年を通した系統的な授業の進め方
- ・新学習指導要領への移行
- ・配慮を要する児童にも分かりやすい特別支援教育の視点を大事にする。

○自主研修会……教科は自由

- ・授業の進め方や様々な工夫・アイデアを積極的に共有する。

○全員が公開授業を行い、積極的に学び合う。

- ・模擬授業を積極的に行う。

③英語活動のスムーズな定着を図る。

- ・5・6年生……英語ノートの内容に沿って、年間20時間の授業を実施する。
- ・1～4年生も、英語活動を積極的に行い、喜んで取り組もうとする意欲を高める。
- ・週1回のモジュール授業を活用し、日常的・継続的な活動にする。

(2) 生活指導・学級経営（豊かな人間性の育成）

- ①基本的な生活習慣や規範意識を身につけさせる。
 - あいさつや相手の気持ちを大切にした言動を身につけさせる。
 - ・教師の側から積極的にあいさつ等の声かけを行う。
 - ・全校朝会や集会等で、がんばっている学級や児童等を具体的にほめる。
 - 学校全体で学校生活の基本的なルールを明確にし、指導に努める。
 - 生活習慣の実態を把握し、保護者にも呼びかけ、改善を図る。
- ②個別の実態に応じたきめ細かい対応・指導を行う。
 - 児童の実態をきめ細かく把握し、必要に応じて早期の対応と粘り強い指導・対応を行う。
 - ・児童の日々の様子について、可能な限り具体的に把握し、具体的に認めほめる。
 - ・いじめや仲間はずれ等の人間関係のトラブルに目を配り、早期に適切な対応・指導を行う。
 - 一人一人を生かしたきめ細かい学級経営を行う。
 - ・配慮を要する児童について、意図的・計画的にほめる機会を増やし、成功体験を積ませる。

(3) 特別支援教育の推進

- ①配慮を要する児童への個別の対応・指導の充実を図る。
 - ピアティーチャー等と連携を密にし、効果的な関わり方や個別の指導・対応の方法の工夫・改善を図る。
 - ・担任等と息の合った、各学級の授業の中における効果的な支援。
 - ・個々の実態に応じた教材・指導内容・方法の工夫・改善に取り組み、個別・少人数の取り出し指導の充実を図る。
 - 個々の実態に応じた、より専門的・効果的な対応への道筋を図る。
 - ・各種機関（教育センター、マネジメントチーム、子ども家庭支援センター、島田療育センター等）との連携を密にする。
 - ・保護者への具体的なアドバイス・支援を行う。
- ②特別支援学級（情緒通級）の充実を図る。
 - 児童の実態に応じた教材、指導内容・方法の充実を図る。
 - ・お互いの情報交換・共通理解を大切にする。
 - ・通常学級担任等との情報交換・共通理解を大切にする。
 - ・他校の特別支援学級との連携を図り、市全体の特別支援教育の質的向上を目指す。
 - 市内各学校のコーディネーター的な役割の充実を図る。
 - ・在籍学級との連携と適切なアドバイス
 - ・保護者への適切なアドバイス、支援

(4) 保護者・地域との連携

- ①保護者等の相談に誠実に対応し、信頼される学校にする。
 - 保護者からの意見や苦情、問題行動等に対して、迅速・適切に対応し、解決を図る。
 - ・保護者等からの意見や苦情に対して、誠実に対応し、まず受け止める。
 - ・事実確認を行い、人権上にも配慮しながら、早期に適切に対応する。
 - ・報告・連絡も含めて、担任と管理職、関係する教職員で協力して対応する。
 - ・個別に配慮を要する児童については、専門機関とも連携を図り、きめ細かい対応を行う。
- ②地域の教育力を広く求め、教育活動に生かす。
 - 青少協や老人会、多摩市内の大学と連携し、人材活用の方途を探る。
 - ・青少協や老人会との連携を図り、青少協の活動や挨拶見守り運動等の更なる充実に協力して取り組む。
 - ・帝京大学や国土舘大学等と連携し、校内研究も含めた教育活動の改善・充実に取り組むとともに、若手人材の効果的な活用を図る。
 - 放課後の学校開放について、更なる充実・改善を目指す。
 - ・教育委員会の支援を受けて20年10月にスタートした取り組みについて、内容や方法の検討を行い、具体的な改善・充実を図る。

21年度

学校経営方針

多摩市立西愛宕小学校長 岡田 啓孝

はじめに

教育界では、古くから、「まず、こどもありき」ということが言われてきた。学校はこどものためにあるということは確かに誰でも認めるところである。一人一人の児童に人間として生きていくのに必要な基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、さらに、一人一人の児童の可能性や個性を生かし伸ばしていくのが学校の役割です。また、学校は児童にとって学びの場です。考え方を学び、生き方を学ぶ場です。そのために、すべての教職員がそれぞれのよさを発揮し、学校教育のあらゆる場、機会を通して意図的、計画的、組織的、継続的に取り組む必要があります。

では、学校は、本当に子どもたちのための学校になっているか。

- ① 子ども同士の好ましい人間関係や子どもたちと教師との信頼関係が確立してる場②伸び伸びと過ごせる場③子どもの興味関心のあることをじっくり取り組める場④わかりやすい授業が展開される場⑤集団生活が支障なく行われるスキルを身に付ける場を学校の作り手である一人ひとりの教職員がこのことを自問自答していく必要がある。そして、よさはさらに伸ばし改めるは改めながら子どもたちに『善さ』（人間らしく賢く生きる力・人間としてよりよく生きる力・自らが強く逞しく生きる力）が発揮できるように全職員が英知を結集していける集団でありたい。

1、学校経営目標

多摩市立西愛宕小学校は、東京都および多摩市の教育方針に則り、地域性を生かしつつ、公教育の目的である基礎学力の定着・向上と豊かな人間性の育成を目指し個に応じたきめ細かな教育活動を展開し、保護者・地域の信託に応える学校づくりを進める。

2、学校経営の基本的な考え方

【本校の教育目標】

人間尊重を基盤として、生涯にわたって自ら学ぶ意欲をもち、社会の変化に主体的に対応できる児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○よく考えたくましく生きる子

- ・自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動できる子ども
- ・心身ともに健康で最後までやりぬく子ども

◎「なかよく 助け合う子」

- ・思いやりの心をもち、協力できる子ども

【めざす学校像】

児童一人一人は、かけがえのない資質・能力を持った無限の可能性を秘めた存在である。どの児童も同じように一人一人大切な存在であり、尊重されなければならない。そして、どの児童も、「認められたい」「わかりたい」「できるようになりたい」「先生やみんなに愛されたい」という多様な願いをもっている。

日々の教育は、教育目標「よく考えたくましく生きる子、なかよく助け合う子」の具現化にあるが、その際私たち教職員は、「子どもたちのために今、何ができるか、何をすべきか」を考え、話し合い、常に『子どものためにある学校、子どもを大切に作る学校』を忘れずに実現させていきたい。

私たちは、子どもたちの実態からも細かな指導による基礎・基本の定着、自ら考え判断し課題を解決していく能力の育成、学ぶ意欲や学ぶ学習習慣の形成、一人一人の個性や能力の伸長などに取り組むと同時にその基盤となる好ましい人間関係の育成に努める必要がある。

そこで、21年度は「仲良く助け合う子」の育成を重点目標として、[思いやりの心を持ち、協力できる子ども]を目指して、常に「改善」と「創造」を念頭におきながら教育活動を推進していく。

『毎日がたのしく、学び合える』学校

(1) 互いに認め合い、助け合い、高め合い、生き生きと活動している学校。

(豊かな人間関係づくり)

① 人権尊重の教育を推進し、常に子どもを中心にした教育実践とする。

教育は、人と人とのかかわりの上に成り立つ。良好な人間関係を築き、保つことが教育の基本である。教師と子ども、子ども同士、教師同士、教師と保護者が相手の立場を理解し、温かい心で助け合い、励ましあう気運を大切にしたい。そして、子ども一人ひとりにとって心の居場所がある学級づくりをしていく。本年度は、人権尊重教育のひとつとして、「人権の花」運動に全校で取り組む。

② よくわかる授業をする。

児童の「わかった」「できた」という成就感や達成感が次への意欲へとつながる。そのため「授業改善プラン」に基づき指導法の改善を図るため、相互に授業を公開し、お互いのよさを学び合い高め合う雰囲気大切にしたい。

③ 子どもの言動に常に目配り、心配りをし、声をかける。

全教職員が全校児童の担任のつもりで指導にあたる。問題が生じたら担任一人で抱え込まないで、生活指導部、教育相談部（特別支援教育校内委員会）を中心に教職員の共通理解を図る。

④ 全教職員が危機管理意識をもつ。

児童のけがや問題行動、学級経営上の問題で保護者とのトラブルが長引くことがある。初期対応に心がけることが重要である。そのために、管理職や教務主任、生活指導主任、保健主任などとの報告・連絡・相談を密にするとともに記録をとっておくことがトラブルを未然に防ぐことにつながる。

(2) **自ら考え、意欲的に取り組むことのできる常に学び合いのある学校**
(豊かな学びの充実)

学校は組織体であり、全員が自己の役割を認識し、組織の一員として任務を果たすとき、互いの歯車がしっかりと噛み合い、大きな動きとなる。教師も人間であり、すべてに万能ではない。誰もが有する「よさ」と「特性」を十分発揮して、それらを尊重する中で、足りない点を補いながら進めるところに協力体制は生まれる。そこで、以下の点に心がけたい。

ア、計画、実践、評価、振り返り (Plan, Do, See, Check) に基づいた研究実践

教育は、意図的、計画的営みである。自己申告、学級経営案、週の指導計画など月、週の教育計画に基づいた教育活動を着実に進める。

イ、授業を大切にする (深い児童理解と幅広い教材研究)

教育は、基礎・基本と時代の要請に対応できる柔軟性の部分をあわせ持つ。真の学力とは何かを考えたとき、単に知識の習得だけといった受動的な学力だけでなく、自ら課題を見付け、学んでいく能動的な学力を身に付けさせなければならない。そのためには、教師自身が教育へのしっかりした理念を持つと同時に、専門職としての自覚と情熱を持ち続けたい。

ウ、教師としての資質・能力の向上

教育の専門家として、教師は学び続けることが大切である。OJT の計画に基づいた自主研修・校内研修・校外研修などを通して、具体的な授業研究を基に絶えず授業の改善、指導法の工夫に心がけたい。

【目指す教師像】

「授業は教師の命である」との認識に立ち、実践できる教師

○人としてプロの教師としての磨きを大切にする教師

○ 教育実践を常に公開し、説明責任を果たす教師

(3) **身体を鍛え、たくましく生きる子を育てる学校**
(健康教育・体力向上)

めあてに向かって行動し、前向きに生きることのできる健全な心と身体を育てたい。

○ 体育学習においても、自分のめあてがもてる学習展開をする。

○ 集会活動や休み時間の遊び、校外活動や遠足などいろいろな場面で健康な心と身

体を育てる工夫をさせる。

- 心の相談員を活用しながら、子どもや保護者の相談に応じ、心と身体のバランスを保つようにする。
- 体力調査を全学年で行い、調査結果において、よいものは伸ばし、弱いものは、体育の授業の中で補っていくようにする。

(4) 安全で美しい環境が整った学校

(環境教育・安全指導)

「環境が人をつくる」の言葉どおり環境は児童の人格形成に大きな影響力をもつ。
校舎内外をいつも清潔にし、学習しやすい環境を保つ。

- 言語環境の整備
 - TPOにあった話し方、相手を尊重する言葉づかい、あいさつ
- 物的、心的環境の整備
- 校門をくぐったとき、校舎に入ったとき、そして、教室に入ったときにほっとできる環境でありたい。
- 安全点検は、危機管理意識をもち、子どもの目の高さで。
- 掲示は、教育活動の見える掲示物、教師の励ましが見える作品展示
- 調べ学習室、パソコン室等の教育環境の充実
- 教材、教具の確認と効果的活用
- 余裕教室の有効活用

(5) 家庭、地域と心のふれあいが実感できる学校。

(地域との連携)

- ① 保護者、地域社会との連携を深め、地域に開かれた教育の推進を図る。

児童は、一人では成長できない。さまざまな援助や試練を通して健やかに育っていく。今、保護者の価値観が多様化している。しかし、親身になって耳を傾ければ、保護者は、安心して学校に子どもを任せられる。また、保護者（話し合う会）や地域から学ぶことも多い。積極的に保護者（話し合う会）や地域とかわりをもっていく。特に、学級の様子を知りたがっている保護者の要望に応えるための方法を工夫する。

また、この地域には豊かな自然や歴史、文化、施設などがある。これらを教材として活用することによって、学ぶ意欲、地域への関心・興味が増す。そこには体験が伴い、地域の人との触れ合いも生まれる。それは、学校教育の理解や協力を深めるとともに、地域の教育力の向上にも寄与する。

- ② 教育公務員としての自覚と誇りを持つ。

- サービスの厳正に努め、全体の奉仕者としての自覚を高める。
- 人間尊重の精神を基盤とし、体罰、いじめ、不登校のない学校づくりに努める。
- 教育公務員としての立場を自覚し、信用失墜行為の防止に努める。

1 目指す学校像

(1) はじめに

共に学ぶ喜び、共に過ごす楽しさを感じ、意欲あふれる子供を育てる学校

平成21年度の多摩第二小学校は、新たな出発の時である。竜ヶ峰小学校と多摩第二小学校を統合してよりよい学校を創っていききたい。

竜ヶ峰小学校の児童、保護者、地域の方々は、統合新校の多摩第二小学校に期待と不安をもっている。元の多摩第二小学校の児童、保護者・地域の方々も同じく期待と不安をもっているはずである。その期待に応え、安心と信頼をもちえていくことが私どもの使命といえる。

そのために、元の両校の児童が共に学ぶ喜びを感じ、共に過ごすことで楽しく成長できるよう、全力で教育活動を進めていきたい。

学校教育の要は、日々の学習の充実にある。一時間毎の目標を明確にし、具体的に考える活動を工夫しながら、分かる喜びを感じさせる必要がある。そのために、教師自身が日々学ぶ姿勢を大切にし、お互いに協力して指導力の研鑽に努めていく。また、学習の充実のためには、生活面での安定が重要であり、生活面の指導力も高めていきたい。

平成21年度は、新学習指導要領の移行1年目である。先行実施される各教科における内容を適切に指導するとともに、言語活動の充実、体育・運動能力テストの実施、環境教育の取組など、新学習指導要領改善の趣旨を生かし、今日的な教育課題にも対応していく必要がある。

新たな多摩第二小学校として、保護者・地域から信頼される学校を全職員で創りあげていきたい。

(2) 学校の教育目標

児童一人ひとりがお互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識を高めるとともに、社会環境の変化に対応できる思考力・判断力・創造力・表現力及び確かな学力を身につけた、心身ともに健康で個性と創造力豊かな児童の育成を目指す。

○考える子

◎思いやりのある子 [今年度の重点]

○元気な子

2 目指す学校像の実現に向けて

(1) **学習指導** 「わかる・できる喜びと学習意欲の向上」

子供たちに、わかる・できる喜びを感じさせる授業づくりをすすめると共に、学習意欲を高め、学習習慣の定着を図る。

①児童の学習の状況を把握し、伸ばしたい能力を明確にして、指導法の改善を図る。

②毎時間の学習目標の明確化と、基本の確実な定着を図る。特別支援教育を充実させる。

③少人数指導や複数の指導者による指導で指導法や指導形態の工夫改善に努める。

④新学習指導要領の移行を確実に実施し、学年で情報交換を密に行い、今日的教育課題に対応する。

⑤竜ヶ峰小学校と多摩第二小学校の歴史や伝統を生かした学習を工夫する。

⑥学習の成果を認め、励まし、的確に評価する。家庭での学習習慣の定着をすすめる。

(2) **生活指導・進路指導** 「笑顔のあいさつと心の通い合う学校」

生活指導の充実が学習の基本となる。一人一人の児童理解に努め、児童が自分の存在感や有用感をもてるように指導する。統合してよかったと感じる活動を工夫する。

- ①進んであいさつし、感謝の気持ちをもって物や場所を使うなど生活の基本を徹底する。
- ②人や集団との関わりを重視し、お互いの人権を大切にする指導を充実させる。
- ③集団生活のルールやマナーを徹底し、規範意識を高める。
- ④児童理解を深め、課題の早期発見に努め、全教職員による共通理解と指導をすすめる。
- ⑤安全で安心して生活できる学校や地域づくりをすすめる。
- ⑥基本的な生活習慣を家庭と連携して定着を図る。

(3) **学校運営** 「保護者・地域に信頼される学校」

学校教育の公開や説明等により、保護者や地域からの信頼を高め、教育効果の向上を図る。

- ①保護者地域からの信頼に応える視点で学年学級経営をすすめ、学校公開を行う。
- ②公務員としての自覚をもち、専門職としての力量を高める。
- ③家庭やPTCA、青少協との連携に努める。各種便りやHPで教育活動を伝えていく。
- ④組織的に校務処理を行い、報告・連絡・相談を迅速・的確に行う。学校評価の実施と活用を図る。

(4) **特別活動** 「人との関わりを深める学校」

集団の中で一人一人の児童が役割を担い、活躍し、存在感や満足感をもつことが大切である。人との関わりが希薄になりがちな社会において、特別活動で人との関わりを学ぶ意義は大変深い。

- ①集団の中で人との関わりを学ぶことを重視した学級活動や行事を行う。
- ②異年齢集団での活動や人とかかわる活動を工夫し、協力や信頼の気持ち、社会性を育てる。

(5) **研究・研修** 「学び続ける教職員の学校」

主体的に学ぶ子供を育てるためには、教師自身が常に学ぶ姿勢をもつ必要がある。新たなことに挑戦し、絶えず自己の教育課題を捉え、解決に取り組む専門性の高い教師でありたい。

- ①校内研究の主題に沿った取り組みや研究授業（提案授業）を全員が行う。
- ②授業を通じた指導力向上を図る。自己の目標設定に対応した研究・研修をすすめる。